

木は1年に1回果実をつけ、それを収穫したあとは、長い冬を越えて再び翌年実をつけます。その実を確実に収穫して、次の収穫に備える準備をし、翌年再び実を収穫するという意味で「金のなる木」と名づけました。
【3~5年で資金3倍化を目指して】

■■ 円安日柄が続いて、月末まで戻り試せば当面のピークへ ■■
… 戻りあれば利食い優先でキャッシュ化比率を高めておく …

<12/7(月)の△145円の10167円でろあ買出現し、目先ダブル底の形へ>

柴田野線では、11/2(月)に▲231円の9802円で売転換が出現したことで、9500円水準から9000円水準で短期売買ができる人は買いを検討してもよいとし、11/27(金)には臨時号を出して6銘柄の買推奨を行ないました。しかし、この日の▲301円の9081円を安値に急反発となり11/30(月)に△264円の9345円となった後は12/7(月)の△145円の10167円まで6日連続の上昇となりました。

12/3(木)の時点での分析では、ドバイ問題、円高、NYダウの高値圏でのリスクもあり、目先反発が再度の下落を待つと慎重な分析をしました。しかし、ドバイショックの落ち着きや政策運営で政府と日銀が協同姿勢を打ち出したこと、さらに為替の円安への動きで戻りを試す動きが続き12/7(月)には1ドル=90円台半ばまでの円安よなったことで△145円の10167円と6日続伸となりました。ここで柴田野線ではろあ買という買法則が出現したことで目先は7/13の9050円に対して、11/27の9076円がダブル底のような形となったことで、さらに戻りを試していく形となりました。ただし、そうなるためには2~3日下落したあと12/7(月)のザラ場高値10204円をぬくと10500円台もとしていました。そのため12/8(火)に出島式投資ワールドで次のようなメッセージを出しました。

-----12/8の出島式投資ワールドより

■■ NYダウの動きにはそろそろ要注意 ■■
… 日経平均が下落すれば、押し目買いの形 …

NYダウは、昨日の柴田野線の分析でコメントしたように、高値圏では上下動となって高値更新がつかまりましたが、実体は柴田野線の引線では11/16の10406ドルから上にも下にも引線されていません。高値更新といってもわずかに更新するぐらいで、上値の重たさを感じさせ調整にはいる前のような動きといえます。その動きの中で先週末の小さな陽線と昨日(12/7)の小さな陽線の連続は、売りにはなりやすい形です。NYダウが下落すれば日経平均は、ここまで5日間で1128円も上昇(本日は▲27円の10140円)してきていますので、当然それなりの調整も考えられます。その場合は、まず上昇幅の1/3押し9800円台が基本で為替の円高とNY株安の程度によって1/2押し9600円水準も想定されます。

本日は、為替が再び円高方向となったことで輸出関連株が売られ、緊急経済対策の決定で売り込まれる状況にはなりませんが、新たな材料待ちとなって▲27円の10140円となりました。先に上値を試せば10250円~10400円ぐらいのもので利益確定してない方は利益確定して(最近の推奨銘柄はほとんど目標に到達しています)次の下げを待つこととなります。

-----12/8の出島式投資ワールドより

結果的には、先週は12/7(月)の10167円(ザラ場高値10204円)を高値に3日続落となって12/10(木)に▲141円の9862円(ザラ場安値9834円)をつけて12/11(金)は急反発となり△245円の10107円の高値引けとなりました。この日は合同SQの清算日でありオプションSQ値の9982円を超えて終わりましたので経験的には今週は堅調な動きが想定され、特に終値で10204円をこえると一段高となることが想定さ

れました。 本日の日経平均は前場は 10260 円まで買われるものの、後場になるとアジア株式の下落と 亀井金融相のデリバティブ規制法案の提言発言を嫌気し▲13 円の 10163 円で引けました。

<日本株出遅れ鮮明だが 世界の株価はすでに要注意>

民主党が選挙に大勝利した翌日の 8/31(月)に 10767 円と今年の年初来高値を更新して下落に転じ、主要 20 ヶ国で唯一マイナスとなっています。主要国の株価は世界景気の底入れ期待を背景に 9 月を境に上げ基調を強めロシアは△27%、中国、ブラジルは 20%をこえる上昇となっています。日本は 11 月下旬には 8 月末以来▲13.4%の下落率でした。日本株の下落は、独自の要因として急激な円高があり輸出産業の比重が高い日本経済への打撃は大きく、三菱東京UFJを始めとする大型増資のラッシュで需給関係が悪化し、さらに 9 月以降の市場心理を悪化させているものに民主党政権の政策の不透明感があります。

日経新聞(12/13)によると、デフレや円高対策が急務となっている中で鳩山首相は政治献金や普天間基地問題への対応に追われ、「経済政策の優先度が低いのではないか」との不安が時が経つごとに拡大し、株式市場では「鳩山政権はいまだに長期的な成長戦略を描ききれていない」という見方が増えてきているということです。そのため海外投資家の間で日本経済の中長期的成長期待が後退し、事実、名目国内総生産(GDP)は 19 年ぶりの低水準に落ち込んでいます。東京証券取引所の 09 年の売買代金は 04 年以来 5 年ぶりの低水準になる見通しで、中国、上海証券取引所にぬかれるのは確実となっています。

<NYダウは高値更新中だが！>

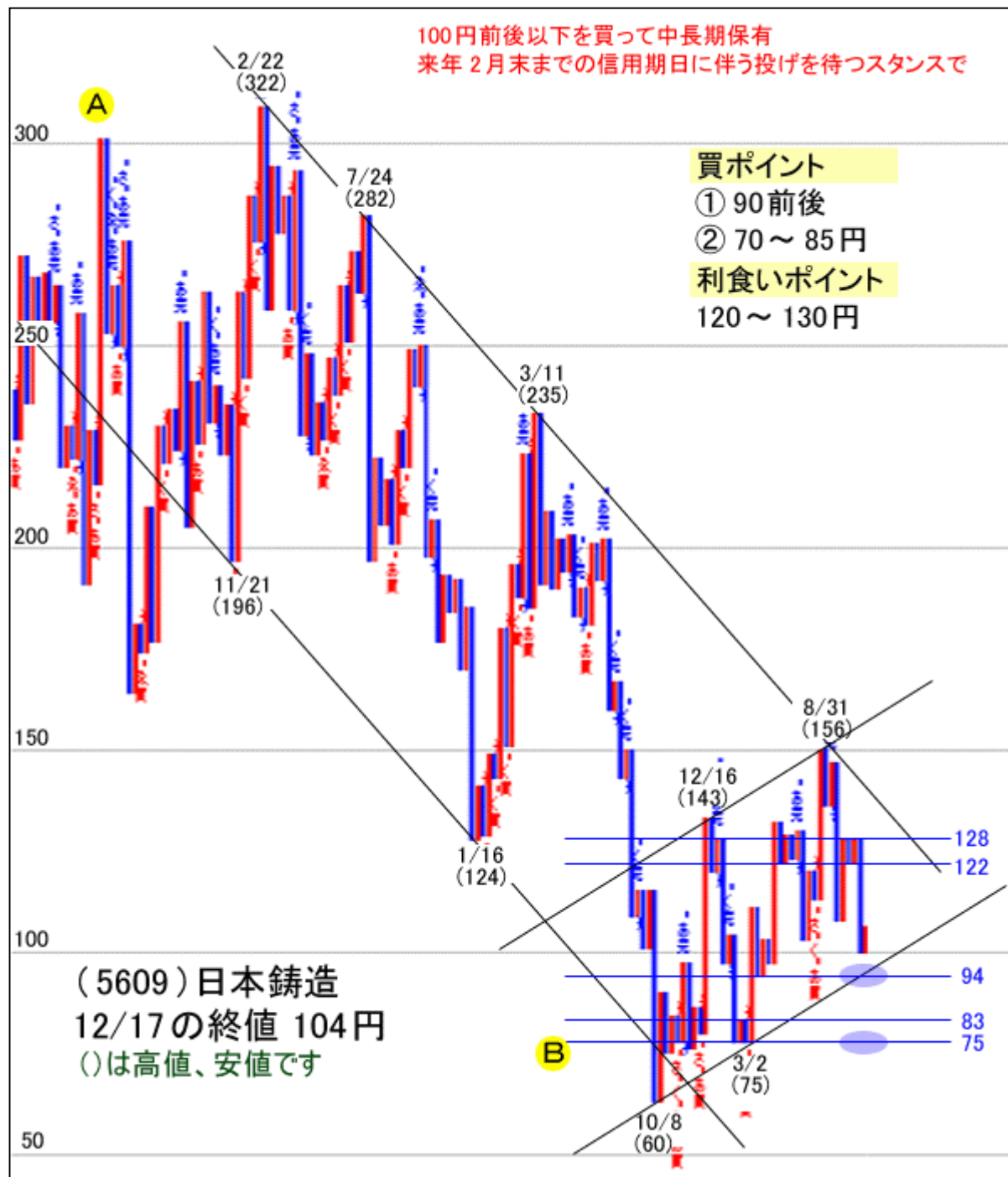
NYダウは危険ゾーンにありながらも、超低金利の長期間維持をFRBが強調するたびに、わずかながら高値を更新しています。ただし、出来高が減少している中での高値更新ですので、絶えず注意しておく必要があります。ドル安がNYダウをサポートしている裏側ではドルへの信認が薄れ、中東のドバイの信用不安(これは一応アブダビの支援で債務を解消)ギリシャの債権不履行への懸念など次々と同じような問題が起こる可能性があります。NYダウをチャートでみると柴田野線では同幅の 2 段上げが崩れてさらに一段高となっている形ですが上昇 3 波動という形を想定すると 3 月 9 日の 6440 ドルから 1 波動、7 月 18 日の 8057 ドルからを上昇の 2 波動とすれば 11/2 の 9678 ドルからの動きは上げの最終局面入りを示していることになり、来年の 1~3 月期中に天井をつけるというパターンになります。そうすると日経平均は目先は今月末(もしくは来年早々)ピークをつけて下落しても、短期的には 3 月までにどこまで戻れるかということになります。

<このレポートの投資戦術は>

今回の戻りは、絶えず為替とNYダウの動きにリスクがあり、たとえ上昇しても日経平均の指数を支える大型株や値ガサ株が中心で個人投資家が好む小型株は低迷しています。この理由は大きくは 2 つあります。1 つは為替の円安方向の時に輸出関連株が買われて日経平均の指数は上昇するが内需関連は置き去りにされるからです。これは鳩山政権の政策の不透明さを反映しています。小型株は内需が多く上値が重い展開となっています。もう 1 つは需給といえます。投資主体別売買動向では 12 月にはいって日経平均が 1 万円を回復した原動力は外国人買いです。外国人は時価総額の大きい大型株を買ってくる傾向が強く小型株は物色の圏外に置かれています。出来高が増加すれば小型株まで波及するのですが、そうなりません。民主党の内需刺激策(子ども手当や高速道路無料化)が実行されれば、小型株の出遅れも解消に向かう可能性もあります。現時点では全体相場が下落すれば小型株も再びバーゲンセール状況になりますのでじっくり待つことになります。

銘柄	12/17(木) の終値	買ポイント	利食い ポイント	P B R	配当	コメント
5609 日本 Casting	104	①90 円前後 ②70~85 円	120~130 円 (短期)	0.52	2.38%	J F E 系列。半導体回復傾向。 風力発電向けに極厚肉用球状 黒鉛鑄鉄開拓

(5609) 日本 Casting



2部銘柄で、外国人売りはありませんが8/31の高値をつけるまでに8月中に何度か大きな商いが出来ていますので、信用期日がくるま2月末までに全体相場が軟調であれば投げが出て大きな下落となる可能性があります。チャートでみると2007年2/22の322円からの下降トレンドの中にあり、この中で2008年の10/8の60円、今年3/2の75円と2点底をつけて上昇トレンド(B)を形成しつつあります。本格上昇は下降トレンド(A)をぬけてからですので、それにはもうしばらく時間を要します。このチャートの形ですと1回目の買いは90円前後となり、投げの出方によっては3/2の75円水準までは考えられます。中間期業績は売上減ながら利益は上方修正、通期利益見通しは据え置きだが半導体関連の回復を慎重にみての判断、上ブレが期待できます。

日経平均



11/2(月)に9802円で売転換が出現し、想定した9000円水準に11/27(金)の▲301円の9081円(ザラば安値9076円)と到達し、翌週の11/30(月)の△145円の10167円でろあ買が出現しました。チャートの形としては7/13の9050円と11/27の9076円で目先はダブル底を形成した形となります。但し、出来高が少なく為替の円安方向へのブレで輸出関連の値ガサ株が指数を引き上げた形ですので為替が円高トレンドに戻ると日経平均の下げもすぐに連動することになります。目先は12/7の10204円を終値でこえることができれば、10362円→10500円台もありますが、逆に12/10の9834円を終値で切ると12/3に窓をあけている9643円を埋める動きとなります。当面は9000円～10500円のボックス相場が想定されます。

【 柴田野線「諺」一〇八話集 】

野線継承者 柴田豊秋氏(柴田秋豊氏の長男)

～ 柴田野線「諺」108 話集への思い ～

想い起こせば十九才より父に弟子入りし野線に携わってから私も七十七喜寿を迎える年齢となり人生も残り少なく頭の回転が衰えない記憶がある内にといい老骨に鞭打ち最後のご奉公と筆を取りました。古来文人が掛軸にかかっている達筆でもなく誰でも読める自筆で執筆いたしました。親子二代、八十数年を過ぎ父秋豊研究奥儀の数々を基礎に研究改良をし、資料を発表しなければ親子二代後世に悔いを残す、あらゆる奥儀を発表する時期だと思ひ立ち著述に至りました。

私達軍国主義時代に育った年齢は悲しいかな子供、孫達も簡単に打てるパソコン、英語が大の苦手、原稿も自筆で文章も次々と浮かぶ苦勞の連続であり今日迄書き留めた連載、父秋豊から教を受けた事、私が長い相場界で気づき疑問に思った事を「諺」として著述にからめ今後野線投資に携わる人達の迷った時の一助になれば幸いと思っています。

古来の文人が掛軸にかかっているのは達筆で我々凡人には仲々読むことが出来ません、父からは文字は下手でも良い誰でも読める字を書く事と云われていたが、素人の事、文法上の誤り文面で重複することもありますが一話一話に意味が違いますので支障はありません。確かに父が研究し編み出した野線観測、棒足順張り、逆張り、鉤足を発表して北海道から日本橋に移り住み野線の復興に取り組んだが北海道の野線屋一と揶揄され軽視されました。今日では野線は「チャート」と呼ばれているが私は野線と云う単語に愛着があり今後も野線という文章一本で表現したいと思っております。

当時を振り返ると悔しく、辛い時期もあったが父の供をして一世を風靡した「赤いダイヤ」のモデルといわれた佐藤和三郎氏、売の山種と語り草となった山崎種次郎氏、立花証券の創設者独眼流のペンネームで執筆石井久氏、数々の相場師に会いお話をさせて戴いた事は相場観測の違いこそあれ、当時若かった私の人生の宝と思っております。普通なら後身に譲り隠居する歳ですが、父を初め諸先輩に追い付き追い越せの気持ちで筆を持ち書きつづけ死が来る迄、研究、野線追及してゆきたい。

何如に奥儀を会得理解していても資金面様々の事情から大勢、中勢、目先、日計り売買に自ずと比の場面で果たして途転か利喰いか若しくは手仕舞いかの決断に迷いが生じたときの一助となればとの思いから野線観測から見た一〇八話を今日迄の成功、失敗から感じた体験を「諺」として纏め投資の一助となればとの思いです。古来「諺」は古典古人の先駆者、先祖、先人から言い伝えられた人類の智恵の結晶だと思っている。日常何気なく使われている諺は誠に意味深い。

あらゆる科学が発達した現在と違い、天候の雨、雪の量、寒さ暑さから作物の種蒔き収穫時、日常の生活に密着し、「諺」として残り実際に何気なく伝えられ使われている。私も含め何如に奥儀を吸収、理解していても必ずや出勤に欲が付きまとい迷いが生じる事もある。比の「諺」は投資の心得として読んで戴きたい。柴田野線「諺」一〇八話集は相場投資、人生の奥儀とも思ひ信じている。投機、投資家は元より、相場に関係ない経営者、個人の皆様にも一読して戴き、人生の一翼となれば幸と思っています。

第二十八話 人も我も弱ければ買い、強ければ売り

新聞、雑誌、評論家、人も自分も弱い、又は強く人氣が片寄り最高潮の気運と感じた場合は今一度法則、法示に真偽を問い野線が何れの「型」を示しているか検索する必要あり。必ずや人氣が片寄り、野線は反対の天底を構成している事が多々あり注意することに越したことは無い。

第二十九話 材料不明の高安に逆向かいするな

材料が不明で納得できない銘柄の動きをするときは無理して売買には関わらないこと、大手投資家、仕手筋が売り逃げ、買い煽りの根拠のない流言飛語を流す場合もあり、野線に法則を問い確かめる必要あり商品に多し。

第三十話 出勤は最良の型と動く銘柄を選ぶ

相場は売り買いの二通りだが株式は上場銘柄が数千、その中から数銘柄を選択するのは至難の業であり迷いも生じる。現物なら大勢的に長期間に亘って観測も出来るが資金に余裕がない投資家は中々出来ることではない。ましてや今日ネットで日計り売買が大半で一喜一憂しているが、平均株価、為替、業種別で選択し波動のある銘柄を抜粋し時々の花形株数銘柄選び出し野線観測を進める。

会員の皆様へ

本号をもちまして 2009 年「金のなる木レポート」定期便の最終号とさせていただきます(臨時号除く)。今年一年ご愛顧頂きまして誠にありがとうございました。なお、2010 年の定期便第 1 号は 1 月 7 日(木)発行となります。来年は皆様にとって素晴らしい一年となりますようスタッフ一同心よりお祈り申し上げます。